金玉山双林寺は高台寺の北にあり、古は天台宗の別院にして伝教大師の開基なり、至徳年中国阿上人移住して時宗と改む。本尊は薬師如来にして伝教大師の作なり、鎮守は天照太神宮、東の丘にあり。西行の庵西行の塔あり、此所に幽居し給ひ、建久九年二月十五日に入寂し給ふなり。当寺の桜は西行法師植給ひ、つねに愛したまふとぞ。性照の塔は平判官康頼入道なり、此ほとりに山荘ありて遠流より帰洛の後、やがてこゝに籠居してうかりし昔を思ひやり、宝物集といふ物語を書けるなり。〔頼康浮世に尊む宝をあつめて辨し、真の宝は仏の道より外なしと、諸経を引て仏経に入らしむるの書なり、三巻あり〕

頓阿の塔あり、はじめ四条道場金蓮寺にすんで、後は双林寺に閑居し寂し給ふ。〔草庵集は此地にて撰し給ひしといふ〕

当寺の院々も風景ありて洛陽交游の勝地なり、春秋ともに酣歌の声間断なし。

〔近年都鄙の騒人文塚となづけ、此地に墳塋をいとなむ事多し、洛東の佳境を費し墳寺となすこと薄行の至りにして、大なる不韻なり〕